

2007年度第4回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2007年(平成19年)12月5日(水) 15:35～16:20

場所：2-1702

出席者：計 83名

欠席者：計 42名

当日配布資料：

1. 前回議事記録(2007年10月3日開催)
2. 『創立100周年記念誌』編纂について(スライド資料の印刷)
3. 創立100周年記念事業募金 募金趣意書

スライド資料：

1. 『創立100周年記念誌』編纂について(第2回中間報告)
2. 創立100周年記念事業募金について

議 事

審議に先立ち、事務局より、配布資料の確認を行った。

また、高祖理事長から、以下の説明があった。

- 前ソフィア会会長の本多義人氏が評議員を退任され、また、前ソフィア会事務局長の剣持睦子氏が理事長・学長推薦委員を退任された。なお、11月28日開催の理事会において、新しい評議員として濱口吉右衛門氏が選任され、本日の長期計画企画拡大会議にも参加されることとなった。

1. 『創立100周年記念誌』編纂について(第2回中間報告)

高祖理事長から、スライド資料を基に、「『創立100周年記念誌』編纂」について、第2回中間報告があった。

1. 編集のコンセプト

- ①過去の成果物(周年誌25・50・75)を尊重しつつ、新機軸に立った記念誌の編集
- ②上智のルーツ・アイデンティティの確認のため、創立に至る前史を踏まえる
- ③グローバルな競争環境を念頭に、不断の刷新・改革推進の発信

2. 編集の方針

- ①創立に至る前史を含め上智の歴史を振り返り、「写真」・「図表」を主体として編集
- ②持続的発展へ向けて、上智の優位性・独自性の効果的なアピール・イメージづくり
- ③上智の創立・存続・発展に多大な寄与・貢献をなされた方々への謝意の発信
- ④日本語に加え、世界に向けて英語の併記
- ⑤「大学100年誌」・「短期大学40年誌」・「社会福祉専門学校50年誌」の一括編集
- ⑥紙媒体(冊子体)に加え、デジタル化対応のCD版(またはDVD版)の作成

3. 基本構成

巻頭言

I. 大学(100周年)

①歴史編

(時代区分に基づき、上智創立に至る前史を含む歴史を「写真」を主体として編集)

②テーマ編

(特定テーマによる特集を組み、持続的発展へ向けて上智の優位性・独自性を効果的にアピール)

③統計・資料編

(上智の歴史を特定の視点から、統計・資料に基づき編集)

④年譜

(上智創立に至る前史を含み、上智のあゆみを掲載)

II. 短期大学(40周年)

(短期大学設立からのあゆみを大学同様の型式により編集)

III. 社会福祉専門学校(50周年)

(社会福祉専門学校設立からのあゆみを大学同様の型式により編集)

「大学」歴史編

I. プロローグ：学問の府の前兆

(1)遙かなる胎動(1549年～)

「日本の首都に大学を」とザビエルをして言わしめた日本と西欧の知性

(2)開かれた日本の再発見(1903年～)

ダールマン師の日本再評価と教皇庁の決断

II. 国家主義の中の個の尊厳(1913年～)

日本の近代化と軍事統制の中に産声を上げた小規模な上智は、東西文化の架け橋としての精神を堅持した

III. 国破れてソフィア精神あり(1945年～)

国家は破れたがイエズス会という世界的な視点を背景に持った上智は、この時代に発展の基を築く

IV. 高度経済成長の中の飛翔(1962年～)

日本経済の急速な拡大が続くなかで、上智は総合大学となり名実共に充実した

V. 世界と共に歩む上智(199年～)

日本の存在感の高まりと重なるように上智は西欧社会のみならずアジア世界に目を向けた

VI. 新たなる胎動 - 世界に並び立つ大学に向けて(1999年～)

多様な文化が併存する世界のなかで、上智は創立の精神を踏まえてさらなる前進をめざす

VII. 鷲のみちびく輝く方へ(2013年～)

これからのソフィア

《質疑応答》

- Q.** 報告では上智らしい時代区分と言えるが、ここに「文明」という視点を入れてはどうか。例えば、1549年は東西の出会い、1913年～1945年は近代国家の衝突、1970年代は途上国や難民の問題、1999年以降は環境と文明、というように、文明をどう捉えるかによって、上智の進むべき方向がはっきりしてくるのではないかと思う。
- A.** 今回の報告ではあくまでも骨組みであり、さらに小見出しなどが付加される。指摘のあった、文明や環境という視点も取り入れるよう検討してみたい。
- なお、記念誌編纂には教職員の協力が必要である。史資料室で写真や資料を収集しているところではあるが、本人あるいは知人が貴重な写真や資料を所有しているということであれば提供をお願いしたい。デジタル化の後、返却する。

また、編纂作業に協力していただける方も、自薦・他薦を問わず募集しているので、そちらもご協力いただきたい。(高祖理事長)

2. 創立100周年記念事業募金活動について

小瀬垣財務担当理事(財政計画等検討専門委員会委員長)から、スライド資料を基に、「創立100周年記念事業募金活動」について報告があった。

また、有力企業からの寄付をさらに充実させるため、教職員の中で情報を持っている方がいれば、募金室まで情報提供をお願いしたいとの依頼があった。

《質疑応答》

Q. 2号館正面玄関の寄付者銘板の横に、募金趣意書の内容を表示すれば、よりメッセージが伝わるのではないかと。また、入学センター前で配付している大学案内と一緒に募金趣意書も置いた方がよいのではないかと。

また、一人でも多くの方が募金活動に関わることが重要であるので、学内各所に「募金箱」を置き、たとえ少額でも募金活動に協力したという気持ちをもってもらう方法はどうかと。

さらに、学生も巻き込む方策を考える必要がある。学生用のクレジットカードを導入することにより、学生にもメリットがあり、しかも、利用額に応じて大学に寄付という形でお金が入ってくるので、自分たちも募金活動に協力していると感じさせることにもなる。

A. 募金活動の広報活動は、各界から協力していただいているが、さらに様々な意見を取り入れながら展開していくつもりである。

募金箱のアイデアは今後検討してみたい。また、学生用クレジットカードは、本来の目的を再確認する必要があるが、導入にあたっては、多機能カードとして使えるものを考えたい。

なお、募金活動に関する意見をお持ちの方は、いつでも募金室までご連絡いただきたい。

(小瀬垣財務担当理事)

A. 共同研究や寄付講座という形で協力していただける企業は多くなっている。このような形の「寄付」は、学内で受け入れてくれるところがなければ入ってこない。是非協力願いたい。

(高祖理事長)

3. 次回会議について

次回は、2008年1月30日(水)の午後4時(大学評議会終了後)に、L-911室で行うこととする。なお、詳細は追って通知する。

以 上